

羽曳野市学校図書館ニュース 第14号

平成26年10月発行：羽曳野市学校図書館司書会

今年の秋の読書月間は少しちがう!?

子どもたちに **家** で本を **読** む楽しさを!



今年の秋の読書月間は、各校で**家読（うちどく）**に取り組めます。

今の子どもたちは、テレビやゲーム、携帯電話に時間をうばわれて、読書の楽しさを知らずにすごしている子が増えています。そんな中で、家に本を持ち帰って読書する機会をつくりたいと考えました。

羽曳野市教育委員会 学校教育課 小林弘典先生より

【うちどく】は、読書の習慣を共有し、本を媒介としてコミュニケーションを深めようとするものです。家族・地域が同じ本を読む、あるいは本を読む習慣をもち、読んだ本の感想を話しあう、それをきっかけに会話が増え、家族・地域の絆が深まればと思っています。（※【うちどく】の「うち」は、本市では家庭のみならず、公共図書館や地域の方など、学校生活以外の全般をさします）

家族・地域が、子どもたちがどのような本を読んで、どんなところに感動したのか子どもたちに関心をもって関わってくれば幸いです。

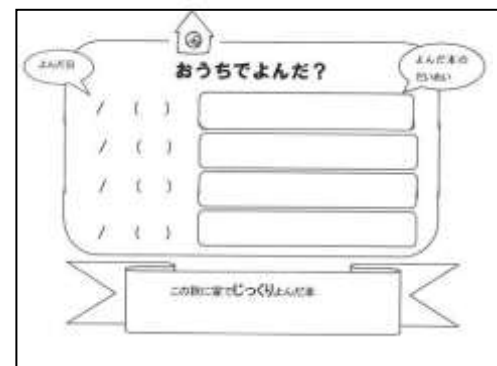
市立図書館とも **連携** します！

秋の読書月間の期間に、市立図書館でも、家読（うちどく）にぴったりの本の掲示やスタンプラリーが行われます。

羽曳野市立図書館 司書 岩佐直美さんより

市立図書館と、小・中学校が協力しあって『読書月間』に取り組めることを、とてもうれしく思っています。

今年は初めて市内の全図書館でスタンプラリーを行います。これをきっかけに図書館に来てくれる子どもたちが増えることを願っています。



「家読（うちどく）カード」（小学校）



家で本を読んだら
記録していきます。
家で本を読むたびに
楽しいことが・・・



「家読（うちどく）ポスター」（中学校）



「家読（うちどく）に
おすすめの本」

0～9 の分類の中から
自分で読むだけでなく
家族との話題になるような
楽しい本も紹介しています。



絵本の持つ力



（図書の時間より）

読書講演会「絵本の読みあいから見えてくるもの」講師 村中李衣氏

8月23日LICはびきのにて、文庫連絡会・市立図書館共催の読書講演会が開催されました。村中氏は、児童文学作家であり、また「読書療法」「読みあい」の活動を、対象者や読みの場を広げながら約30年間続けておられます。

絵本を読みあうとは、 声をだして一緒に本を読むことです。その人がそこにいることで読みが広がる、今日この瞬間あなたと私の間に生まれる物語です。絵本を読むことは、その人の人生がそこに反映され、自分の心と相手の心をきちんと見つめ合う中で、自分で気づき変わっていくことができます。

さまざまな読みあいシーンを伺い、あらためて「絵本の持つ力」について学ばせていただきました。

先生のおすすめ本コーナー

テーマ 『学級で読んでよかった本』

『マコチン』

著：灰谷健次郎
出版：あかね書房



素直で活発な男の子「マコチン」の小学生生活を描いた作品です。

子どもらしい発言や行動をするマコチンに、子どもたちは自分を重ね笑ったり感動したり。

マコチンの「素直さ」や「優しさ」に触れてみて下さい。低学年におすすめ。
（高鷲北小・吉田先生）

『ものぐさトミー』

作：ペーン・デュボア
絵：ペーン・デュボア
訳：松岡 享子
出版：岩波書店



私は『お笑い』が大好き。特に爆笑の本をいつも探しています。その中でこれはクラスが笑いの渦になること間違いなし。トミーは、なまけ者がのどから手がでるような電気じかけの家に住んでいて歯磨きもお風呂も着替えも全部機械任せ。そこに嵐が来て停電。その先が笑える、笑える！（白鳥小・島崎先生）

『いのちをいただく』

作：内田 美智子
絵：諸江 和美
出版：西日本新聞社



自分はいろいろなものの生命に支えられて生かされている。食について、感謝して“いただく”気持ちをもってほしい。

6年生家庭科で「卒業前の感謝の気持ちを表そう」のところで読みました。

安全でおいしい食材のために、いかに多くの人が大切に命を育てているかに気づいた児童がたくさんいました。
（西浦東小・山本先生）

『そうじきのつゆやすみ』

作：村上しいこ
絵：長谷川義史
出版：PHP 研究所



もしも、みんなの家にあるそうじきがしゃべりだしたら一体どんなことを言っているのでしょうか？関西弁でユーモアたっぷりにえがかれて低・中・高どの学年も楽しんで読めます。他にも『ランドセルのはるやすみ』『とびばこのひるやすみ』『れいぞうこのふゆやすみ』などなど、シリーズもぜひ読んでみてくださいね。
（高鷲小・吉田先生）

司書のおすすめ本コーナー

テーマ 『秋』におすすめの本』



『もりいちばんのおともだち』

おおきなクマさんとちいさなヤマネくん
作：ふくざわ ゆみこ
出版：福音館書店

低学年

森でいちばんおおきなクマさんは、ちいさなものが好き。森でいちばんちいさなヤマネくんは、おおきなものが好き。だから、ふたりは出会ってすぐ仲良しになりました。

ある日、クマさんとヤマネくんはケーキ屋さんで苗をもらい、それぞれ育てはじめますが思わぬことがおこります。

自分のこと以上に相手を思いやる気持ちが、すてきな絵本です。シリーズで出版されていて、読み聞かせにもおすすめです。

中学年以上

『たのしいこびと村』

文：エーリッヒ・ハイネマン
絵：フリッツ・バウムガルテン
訳：石川 素子
出版：徳間書店



食べるのに困ったねずみの親子が、困ったときに助けてくれるこびと村を探しに旅に出ます。ようやく見つけたこびと村の、秋の森の様子が、美しい挿絵とともに丁寧に描かれています。やがて2匹は秋の実りの祭りに加わります。たのしいこびと村で時間を忘れる2匹。おなかをすかせてまっている家族のもとへ帰ることができるでしょうか？



『のっぽのサラ』

作：パトリシア・マクラクラン
訳：金原瑞人 絵：中村悦子
出版：徳間書店

高学年以上

アンナのお母さんは、弟のケイレブが生まれた時に亡くなりました。ある日、お父さんが出した奥さん募集の新聞広告を見て、サラという女性が遠い海辺の町からやってきました。のっぽでぶさいけど、明るくて行動的なサラは、家族にとってとても大切な存在になっていきます。1900年代初めの頃のアメリカで、作者のお母さんが体験したことをもとに書かれています。ニューベリー賞受賞作品（1985年）。続編に『草原のサラ』があります。